2024休眠預金通信 山梨号 VOL.6

舞い上がれ 社会を変えるみんなの力
休眠預金活用事業

コレクティブインパクトで実現する持続可能なまちむらづくり
～甲信地域の限界集落、過疎地、消滅自治体と呼ばれる小さな地域から～

編集：山梨県社会福祉協議会
福祉振興課
コミュニティ再生推進担当

10月になり、日中も秋の気配を感じるようになりました。実行団体が思い描く「持続可能なまちむら」に向かって、精力的に活動を進めています。

9月は、現時点の事業進捗状況を把握し、事業目標の達成見込みをはかる「中間評価」をおこないました。中間評価で見えた事業計画の改善や実施体制・活動内容の見直しをし、１年半後のゴールまでをより充実した活動にすべく、各団体と話し合いをおこなっています。

今回はPO※の８.9月の訪問活動等の内容を中心に、中間評価前後のミーティングについて紹介します。

※POとは、プロジェクトオフィサーの略。助成事業の進捗管理や伴走支援を行う役割。

山作LLC合同会社（富士川町）

木育と地域通貨で、支え合う地域の仕組みを育む

月次面談を兼ねて「山作関係者ミーティング」を開催し、今までの活動内容とこれからの方向性について意見を交わしました。 山作さんは、新しい団体としてこの事業をスタートしたため、まずは認知してもらうことに重点を置き、知り合った方々とのコレクティブな活動にむけ種をまいてきました。現在は、関係の輪が広がり、学童保育や児童館、観光関係団体、木工作家など様々なチャンネルを活かし、活動を進めています。

里山部分では、広葉樹の活用に今後も力を注ぎながら、「まち」の人が山へ気軽に訪れる機会をつくり、山への理解を深めかかわっていくようなコンテンツについて検討をすすめていきます。

まち部分では、アセスメントの結果から取り組んできた子どもへのアプローチについて、より「山の活用」という軸でどう展開していくか、今までの活動と照らし合わせて話し合いました。また、地域通貨については、長期的な視点も含め、地域通貨の役割などを話し合いました。



富士川町で、関係者ミーティングを行いました

特定非営利活動法人多摩源流こすげ（小菅村）

「一宿一助」で地域と人がつながる、新しい滞在のかたち

この事業が始まってから「一宿一助の宿・結（ゆい）」の整備を重点的に行い、宿の完成が見えてきました。事業計画の見直しも含め、原点に立ち返り意見交換をしました。この事業では、単なる観光振興や移住促進に留まらず、村の日常にある農業の人手不足などの「困りごと」解決に向け参加者と共に活動し、地域の暮らしや文化を次世代へ継承することを目指しています。実現のために、今後どんな仕組みが必要になっていくのかを検討しました。



「一宿一助の宿・結」のプレート

こすげさんは、この村が持つ、互いの様子が見える距離感から生まれる「おせっかい」とも言える温かい人間関係こそ、従来の観光では得られない魅力と考えています。この事業の参加者がこの価値を享受し、住民自身も当たり前だと思っていた日常の価値を再発見する機会となるよう、「一助プログラム」「地域の体験イベント」の設計をしていきます。また、この宿が単なる宿泊所ではなく、来訪者をつなぐ「関係人口案内所」的なハブ・コーディネート機能を、コレクティブな活動として地域関係者と一体的に推進する体制に向け活動していきます。

特定非営利活動法人みんなの街（北杜市）

“生きづらさと担い手不足、双方を支えるウェルネス拠点づくり

事業計画の見直しについて意見交換を行いました。「自分と向き合うための拠点と居場所が増える」という目標は着実に進捗しており、「地域資源（畑など）を活用して自分自身を見つける」取り組みも進んでいます。また「参加者の田舎暮らしへの意欲喚起」は実際に移住につながった事例も確認しました。一方で、「参加者と地域住民の交流」や「具体的なプログラム開発」については、今後さらに注力すべき課題であると認識されました。既存の目標達成に向けて活動を深掘りしていく方針で進めていきます。今後の重要な活動である、地域と連携するプログラムについても意見交換をしました。みんなの街さんが目指すプログラムは、言われたことをこなすだけで工夫が生まれにくい「作業」ではなく、自発的な「楽しみ」として捉えることで参加者が創造性を発揮し、リトリートにつながるものです。今後の展開に向けて、このプログラムの本質を誤解なく伝えられるよう、活動の枠組みを整理していきたいと思います。


今年はどんな小屋ができるのかな

GIBIER FACTORY合同会社（道志村）

ジビエを通じて、山から街へ広がる流域循環モデル

事業当初に、ジビエ解体トレーラーを導入し、このトレーラーを活用しながら事業展開が進んでいます。メディアの取材を多く受けたことで、予想以上の反響があったことに嬉しさを感じつつ、同じような悩みを持つ自治体などからの問い合わせもあり、課題の共有にもつなげていくことになりました。

事業の進捗に伴い、「源流域（道志村）と下流域（横浜）の連携」を進めていくことは今後の大きな目標となりますが、同様の課題を抱える他の山間地域へ「道志モデル」を展開・輸出することについても意見交換をしました。道志村内・周辺地域の企業等とも複数の取り組みが進んでいるため、域内でのさらなる連携の強化が図れるよう取り組みを進めていきます。


山梨日日新聞　2026年（令和8年）3月5日　木曜日

かいじネットワーク

ジビエ解体トレーラー導入

合同会社 道志で国内初

移動式、処理量が大幅増

ぐんない

多くのメディアにとりあげられました

休眠預金活用事業のご紹介

休眠預金活用事業の内容が気になって、「自分も休眠預金活用事業の活動に参加したい！」「休眠預金活用事業をやってみたい！」と思ったかたもいらっしゃるかと思います。そんな方には、JANPIA（一般財団法人日本民間公益活動連携機構）のこのホームページをご紹介します！

「自分も休眠預金活用事業の活動に参加したい！」

休プライベントページ

https://www.kyuplat.com/event/

「休眠預金活用事業をやってみたい！」

「どんな事業があるのか興味がある！」

情報公開サイトページ

https://johokoukai.janpia.or.jp/